

■ 「飛鳥・藤原の宮都」世界遺産登録を記念 ■ 飛鳥史学文学講座 特別シンポジウム

【日時】8 月 30 日（日）13：00 【場所】明日香村中央公民館（奈良県明日香村）

「飛鳥・藤原の宮都」が 7 月 26 日に世界遺産に登録されたことを記念し、関西大学と明日香村は 8 月 30 日、「飛鳥史学文学講座」で特別シンポジウムを開催します。第一線の研究者や本学理事長・学長、明日香村長らが登壇し、世界遺産登録の意義と、保存・研究・地域活性化の未来を展望します。

本件の ポイント

- ・ 開講から半世紀を超える人気講座「飛鳥史学文学講座」で、世界遺産登録後「初」のシンポジウム
- ・ 明日香村文化財顧問・木下正史氏が基調講演。本学理事長・学長、明日香村長も登壇
- ・ 長年の連携の成果を礎に、世界遺産の価値を未来へつなぐ

■ 世界遺産登録後初 飛鳥史学文学講座の特別シンポジウム

1975 年に開講した「飛鳥史学文学講座」は、今年で 52 年目、通算 500 回を超え、延べ約 11 万人が受講した本学を代表する公開講座です。通常は一人の講師による講演形式で実施していますが、今回は「飛鳥・藤原の宮都」の世界遺産登録を記念した特別企画として、シンポジウム形式で開催。登録後初めて、多様な立場から世界遺産の価値や今後の保存・活用について議論します。

■ 木下正史氏が基調講演 各分野の第一人者が集結

基調講演には、明日香村文化財顧問で東京学芸大学名誉教授の木下正史氏が登壇し、「飛鳥・藤原の宮都」の歴史的価値や世界遺産登録の意義について講演します。続く鼎談では芝井敬司理事長、高橋智幸学長、森川裕一明日香村長が登壇。さらに対談では関西大学名誉教授の米田文孝氏と明日香村教育委員会文化財課課長補佐の西光慎治氏が、保存・研究・地域づくりの視点から飛鳥の未来を展望します。



■ 半世紀にわたる連携を礎に、世界遺産の価値を未来へ

世界遺産を構成する 19 遺跡のうち 15 遺跡は明日香村に所在します。本学は石舞台古墳の調査にあたった末永雅雄名誉教授を礎とする考古学研究の系譜が受け継がれ、長年にわたって明日香村での発掘調査・研究を進めて高松塚古墳の極彩色壁画発見への貢献などの成果を上げるとともに地域との連携を深めてきました。本シンポジウムでは、こうした連携の歩みを礎に、世界遺産の価値を次世代へ継承し、保存・研究のさらなる深化と地域活性化につなげる展望を発信します。

<飛鳥史学文学講座 特別シンポジウム（通算第 608 講）概要>

【日 時】2026 年 8 月 30 日（日）13：00～15：00

【場 所】明日香村中央公民館（奈良県高市郡明日香村川原 91-1）

【プログラム】① 基調講演 木下正史（明日香村文化財顧問・東京学芸大学名誉教授）

② 鼎談

芝井敬司（関西大学理事長）

高橋智幸（関西大学学長）

森川裕一（明日香村長・関西大学客員教授）

<進行>

木治準宝（明日香村世界遺産戦略課長）

③ 対談

米田文孝（関西大学名誉教授）

西光慎治（明日香村教育委員会文化財課課長補佐・関西大学非常勤講師）

【主 催】関西大学飛鳥文化研究所、明日香村教育委員会

【詳 細】<https://www.kansai-u.ac.jp/pa/event/asuka.html>

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当：伊地知、小林

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35

Tel.06-6368-1937 Fax.06-6368-1266 www.kansai-u.ac.jp